

プログラム近況報告 World Vision

この子を救う。未来を救う。

2013年度 (2012年10月1日～2013年9月30日)

インドネシア共和国 スカン地域開発プログラム(IDN-170711)

地元の行政機関と協力し、
子どもたちにやさしい町づくりが行われています



子どもたちは移動図書館の絵本が大好きです

移動図書館で本を楽しむ子どもたち

スカン地域開発プログラム(以下、ADP)は、2015年度をもって支援終了を予定しています。そのため今年度は、支援終了に向けた準備を行いつつ、保健衛生プロジェクトと経済開発プロジェクトの2分野で活動を実施しました。特に地元の行政機関のパートナーとして、ジャカルタ市の子どもたちを対象にした子どもにやさしい町づくりに積極的に参加しました。これらの活動を通じて、子どもたちが安全で健康的な環境の中、成長できることを目指しています。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日頃より、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのご支援チャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

～子どもたちも積極的に活動に参加しています～

日頃スキャンADPの子どもフォーラムは、ピア・エデュケーターを通じたHIV/エイズや子どもの権利についての啓発活動、スポーツやアート等の子どもたち向けのイベントを開催しており、イベントには地域の子どもたちも多く参加します。より広く子どもフォーラムの活動を伝えられるよう、地域の行政機関等の協力を得て、子どもフォーラムのメンバーを対象に、効果的に子どもたちの声を届けるためのメディア・トレーニングを実施しました。メンバーはエッセイやウェブサイト等、各自の能力や可能性に合わせた方法を学び、子どもフォーラムの活動を伝えました。その結果、定期的に子どもフォーラムの活動に参加するメンバーは20～25人だったところ50人に増加し、積極的に活動がすすめられています。

また、学校でのコンピューターの授業の理解を早めるため、子どもフォーラムや地域の団体の協力を得ながら、週に2回コンピュータークラスを運営し、小学校3～4年生の子どもたち約80人が参加しています。



コンピュータークラスで学ぶ子どもたち



メディア・トレーニングの活動に積極的に参加する子どもたち

【経済開発プロジェクト】

家庭の所得を向上させるために、3つの貯蓄グループの設立を支援しました。現在、51人のメンバーが参加しています。メンバーは規定に従って毎月の会費を払い、定期的に会議を開催しています。メンバーは、自分のビジネスの運営資金や、子どもの養育費など、必要に応じて融資を受けています。



貯蓄グループの会議に参加するメンバー

【スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト】

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

email: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

【プログラム・マネージャーからのごあいさつ】

親愛なるスポンサーの皆さま

ススキャンADPの子どもたちや地域のため、たくさんのご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

ススキャンADPがあるジャカルタ市では、子どもにやさしい町を目指した取り組みが行われており、その過程には地域の子どもたちも積極的に参加しています。例えば、地域レベルから国際レベルまで、様々なレベルでの「子どもフォーラム」が開催され、彼ら自身にできることは何か話し合われています。2013年度、ススキャンADPの子どもフォーラムのメンバーも、州レベルでの子どもフォーラムに積極的に参加しました。自分たちのコミュニティがどうすればもっと子どもにやさしい地域になるか、メンバーで意見を出し合い、話し合ってきました。そして6月の「子どもの日」に、地元の行政関係者に「学校の前に横断歩道を引いてほしい」という要望を届け、聞き入れられただけでなく、年間の事業計画を作成する会議にも招待されました。これらの活動や変化はすべて、皆さまからの大きなご支援と祈りにより実現したことです。感謝を込めて、ご報告いたします。

レイチェル プリヨ ウトモ（ススキャンADPマネージャー）



【HIV/エイズプロジェクト】

HIV/エイズとともに生きる人々に対する誤解や偏見をなくすため、地域の宗教リーダーを対象としたトレーニングを開催しました。イスラム教を始めとする地域の宗教組織の協力を受け、4地域から30人が参加し、お互いの経験を共有しながら積極的に学び合いました。参加者たちがトレーニングで学んだ、HIV/エイズに関する正しい知識をそれぞれのコミュニティで広め、HIV/エイズとともに生きる人々に対する差別をなくしていくことが期待されます。

子どもたちがHIV感染の危険から身を守るためには、HIV/エイズについての正しい知識を身につけることが重要です。薬物使用、学校中退、アルコール摂取などの問題を多く抱えている地域で、HIV/エイズについて正しい理解を深めるためのワークショップを開催し、12～18歳の子どもたち60人が参加しました。ワークショップは、ピア・エデュケーター*の子どもたちとコミュニティのリーダーたちが中心となって進めました。参加した子どもたちは、どのような行為がHIV感染の危険を高めるか、どうすれば感染を防げるかを学んだだけでなく、子どもフォーラム**等の活動に積極的に参加するようになりました。これまでに、10人（うち4人は18歳以上の若者）がジャカルタ市からピア・エデュケーターとして認証され、ワークショップを通じてのべ300人以上の子どもたちに、HIV/エイズについての正しい情報を伝えています。

*ピア・エデュケーター：HIV感染の可能性の高い行動について具体的に紹介しつつ、感染しない生活方法についての情報を同年代の仲間に広める普及員であり、仲間から質問を受ける窓口

**子どもフォーラム：子どもたち自身が自分たちの声を大人たちに届けていく活動



12～18歳の子どもたちを対象にHIV/エイズに関するワークショップを開催しました



壁新聞を作成しHIV/エイズについて正しい知識を伝えるピア・エデュケーターの子どもたち

【保健衛生プロジェクト】

今年度スキャンADPでは、地域で運営されている乳幼児の食事指導(Infant and Young Children Feeding、以下IYCF)と、出産前クラスが政府の支援を受けてより地域に根付き、子どもたちが良好な栄養状態を保てるよう、地域のパートナーと協力しながら地元政府に働きかけました。現在、地元政府はIYCFと出産前クラスに予算を配分しています。ワールド・ビジョンは、北・東ジャカルタの公共医療施設と保健省と連携して、出産前クラスを手伝っている地域の保健ボランティアを対象にトレーニングコースを開発しました。今後は、トレーニングを終了した保健ボランティアが、出産前クラスのカウンセリングを進めることを目指しており、現在、5人の積極的なボランティアがコースを修了し、出産前クラスの活動を始めています。

また、母親たちにとって大切な助け手である夫や義理の両親たちを対象にしたイベントを開催し、73人が参加しました。イベントでは、母乳育児や子育てにおける家族の責任などについて啓発するとともに、子どもたちも含めたグループワーク(地元の食材を使った健康的な食事の作り方、クイズ等)を実施しました。

そのほか、IYCFのファシリテーター向けのトレーニングや、保健ボランティア向けのカウンセリングについてのトレーニング、健康的な食事についてのセミナーを実施し、乳幼児を持つ母親を対象にして地域で行われているカウンセリングをモニタリングしました。IYCFのカウンセラーたちが実施したモニタリングの結果、27人の保護者が乳幼児により様々な種類の食事を与えるようになるといった変化が表れています。



出産前クラスを行うボランティアたちへトレーニングを行いました



乳幼児の食事指導を担う、地域の保健ボランティアへのトレーニングの様子。5歳以下の子どもたちの栄養改善が目的です

会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

IDN-170711

プログラム支援額

(単位:円)

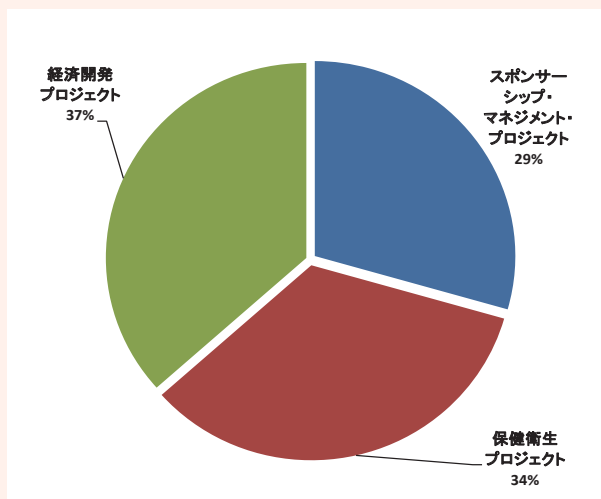
チャイルド・スポンサーシップ	19,335,556
当期支援額	19,335,556
前期繰越金	2,482,455
プログラム支援額合計	21,818,011

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	4,705,925
保健衛生プロジェクト	5,442,209
経済開発プロジェクト	5,853,046

プログラム支出額合計	16,001,180
次期繰越額	5,816,831

支援分野別内訳(IDN-170711)



プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

2013年度 (2012年10月1日～2013年9月30日)

インドネシア共和国 トウナ地域開発プログラム (IDN-197362)

子どもも大人も積極的に活動に参加しています



貯蓄を始めた両親とその子どもたち



両親の前で、自分たちの将来の夢について発表する子どもたち

トウナ地域開発プログラム(以下、ADP)は、2012年度に始まったばかりの新しいADPです。2年目である2013年度は、地元政府を始めとする関係機関、NGO、コミュニティのリーダーたちの協力を得ながら、主に経済開発プロジェクトを実施しました。

具体的には、コミュニティの子どもたちや人々にADPの活動に参加するよう促しながら、収入向上を目的とした農家のトウモロコシ生産の改善や、家計管理のためのトレーニング、未来の災害に備えるため、コミュニティの防災機能を高めることを目指したトレーニング等を実施しました。



子どもたちのリーダーシップ・トレーニング

チャイルド・スポンサーの皆さま

日頃より、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとともに喜んでいただければ幸いです。

皆さまのご支援チャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

農業技術を学び仲間に伝えています！

スピヤナさん(39歳)は、トウナADPのコミュニティの中でも最も僻地にある村で暮らしています。2013年4月、トウナADPはこの村で2つの女性グループを設立し、スピヤナさんはそのうち1つのグループでリーダーを務めています。実演農場や野菜栽培、家庭菜園のトレーニングのための準備は、女性グループの役割となっています。スピヤナさんはリーダーとして、準備がきちんと行われているか、メンバーが毎週のトレーニングに参加しているかを監督しています。スピヤナさん自身もトレーニングに参加し、畑の整地方法や、有機肥料や植物性殺虫剤の作り方について学びました。

スピヤナさんは話します。「この活動は、私の家族やコミュニティにとってとても有意義なものだと思います。だから、ワールド・ビジョンのスタッフがいなくても、毎週実演農場で働くようメンバーを励ましています。ワールド・ビジョンが来る前は私の家の庭は草だらけでしたが、今は家庭菜園になっています」

また、スピヤナさんは自分の家族の支出パターンを把握したいと、支出の記録も始めました。少しずつ貯蓄を始め、自分の娘にも貯蓄をするように励ましています。「ただ収入が増えるのを待つのではなく、普段の収入から貯蓄を始めれば、私たち家族の生活がよくなっていくことを学びました」



家庭菜園でのスピヤナさん(右)。家族みんなで積極的に活動に参加しています

リーダーシップ・トレーニング

2つの「子どもクラブ」に参加している13～18歳の子どもたち30人を対象に、リーダーシップ・トレーニングを実施し、人前でのスピーチや、話し合いの進め方を実践しながら学びました。参加した子どもたちは、ピア・エデュケーター*としてトレーニングで学んだことをそれぞれの村で、ほかの子どもたちに伝えていくことが期待されています。

*ピア・エデュケーター: HIV感染の可能性の高い行動について具体的に紹介しつつ、感染しない生活方法についての情報を同年代の仲間に広める普及員であり、仲間から質問を受ける窓口



リーダーシップ・トレーニングの様子

【スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト】

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

今年度は、子どもたちが衛生的な習慣を身につけるよう、地元の保健省の協力を得て、10カ村の幼稚園と小学校の子どもたちを対象に、せっけんを使った手洗いの実演練習を行いました。加えて、地元政府の協力を得て、50人の子どもたちが出生証明書を得ることができました。



せっけんを使った手洗い方法を学ぶ幼稚園の子どもたち



出生証明書を受け取った子どもたち

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話: 03-5334-5351 FAX: 03-5334-5359

email: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

【プログラム・マネージャーからのごあいさつ】

親愛なるスポンサーの皆さま

トウナADPの子どもたちや人々に仕える機会が与えられていることを、神様に感謝します。地域で行われた活動は、地元政府を始めとする行政機関、NGO、地域のリーダーたちの協力を得ながら実施することができました。地域の子もたちと地域の人々を支えてくださっているスポンサーの皆さまに、心からの感謝をお伝えします。私たちの働きが、トウナ地域に、大きな変化をもたらすものとなることを願っています。皆さまに、神様の祝福がありますように。

クリスチャン エディ(トウナADPマネージャー)



【経済開発プロジェクト】

トウナADPに住む人々の多くが農業で生計を立てていますが、技術が低く生産性は高くありません。また、農作物の販売についての十分な情報がなく、各農家が仲買人に言われたままの値段で販売してしまうため、利益を上げることができません。その上、家計の管理をしていないことから、多くの家庭が日々の生活の必要を満たすために借りた借金の返済に苦しんでいます。

「貯蓄ができるようになりました！」

まず家計管理と貯蓄の習慣を身につけることを目指し、主に農家グループのメンバーやその家族を対象に、家計管理と貯蓄グループについてのトレーニングを開催しました。

始めは、ほとんどの家庭が日々の生活に十分な収入すら得ていないことから、特に支出を記録することが困難でした。そのため、まず家庭菜園で野菜を栽培するためのトレーニングを実施、24世帯が参加しました。今では、収穫した野菜を販売することなどによって追加の収入を得られるようになり、支出を記録し、少しずつ貯蓄できるようになっています。中には、子どもたちにも貯蓄を教えている家庭もあります。



家庭菜園を始めた女性と子ども



家庭菜園のための植物農薬の作り方を学ぶ母親たち

実演農場の設置

3カ村に小規模の実演農場を設置し、地元の行政機関の協力を得ながら、地域の主要作物の1つであるトウモロコシの生産向上のための農業トレーニングを実施し、234人が参加しました。トレーニングでは有機農法を取り入れ、有機肥料や植物性殺虫剤の作り方についても教えています。

うち1カ所の実演農場では、これまでの農法では8kgの種から1.8tの収穫だったところ、6kgの種から2.7tの収穫を得ることができました。トレーニングで学んだ農法を実践する農家も少しずつ出てきています。



実演農場での収穫の様子



収穫には、地域住民や地元政府の関係者も参加しました

農産物の共同販売

農家の収入向上のためには、仲買人に対する農家の立場を改善し、農作物が適正な価格で販売されることが必要です。今年度は、2カ村で農作物の共同販売のための枠組み作りに取り組みました。具体的には、既存の農民組合の役員を対象に、交渉や会計スキル向上のためのトレーニングを実施しました。その結果、2つの農民組合では共同販売を開始するため、各村の金融機関とパートナーシップを組むことを計画しています。また、ほかの村ではすでに農民組合が共同販売を実施しており、48の農家が農民組合を通じて農作物を販売しています。しかし、多くの農民組合では組織体制が整っていないため、2014年度からは、農民組合を構成している農民グループへの支援を中心に、組織の強化を行う予定です。



共同販売について話し合う農民組合のメンバーたち

未来の災害に備えるために

トウナ地域は、スラウェシ島の中でも最も災害が起こりやすい地域の1つです。未来の災害に備えるためには、コミュニティの防災機能を強化することが必要です。今年度は、地元の行政機関や警察、軍の協力を得て、最も発生する可能性が高い洪水を想定した訓練を2カ村で実施し、のべ216人が参加しました。訓練では、洪水発生時にとるべき行動やコミュニティとしてなすべきことを学び、子どもたちや高齢者、女性も参加しました。また、災害で負傷した人々への応急処置等について学び、6カ村を対象に防災計画を作成するための研修も実施しました。



テントの設置方法を学びました



応急処置の訓練の様子



心肺機能蘇生も学びました

会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

IDN-197362 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	16,111,000
当期支援額	16,111,000
前期繰越金	2,382,678
プログラム支援額合計	18,493,678
プログラム支出額	
経済開発プロジェクト	9,264,161
スポンサーシップ・マネージメント・プロジェクト	6,461,397
プログラム支出額合計	15,725,558
次期繰越額	2,768,120

支援分野別内訳(IDN-197362)

